2016 年度活動報告 CJP 授業：文章表現 A

藤原 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業では、レベル4以上の学習者を対象とし、情報誌（フリーペーパー）の作成を通して、書く技能の向上を目指した。クラスの目標を、①情報誌の作成を通して、読み手を意識した文章を書けるようになる、②互いのコメントから、文章をより良いものにすることができるようになる、の2つとし、読み手を見据えた文章の書き方に主眼を置いた。そして、それらの活動の中で、アカデミックとは異なる分野の語彙力や表現力も同時に伸ばしていくことを目指した。日本語の具体的な指導内容については、学習者の書いた記事から学習項目を吸い上げる後行シラバスの形を採用し、必要に合わせて教材を準備し、指導を行った。

2. 授業内容

学習者には、1セメスターの間に、フリーペーパーを3度発行することを課した。フリーペーパー発行のための活動の大まかな流れは、①企画会議、②記事1の執筆、推敲、③記事2の執筆、推敲、④フリーペーパーのレイアウト編集で、この流れを3度繰り返し、毎回発行後に振り返りを行った。作成にあたり、こちらからは「留学生と日本人学生をつなぐフリーペーパー」というフリーペーパーのコンセプトのみを提示し、フリーペーパーのタイトルや、どのようなテーマで記事を書くか、レイアウトをどうするか、だれがどの部分の作業を担当するか、といった具体的な内容や作業の決定については、企画会議で話し合わせ、学習者主導で進めるという形をとった。完成したフリーペーパーは、カラーで印刷の上、実際に日本人学生や教員に配布した。学習者が執筆した記事に対する教員のフィードバックについては、①全体の学習項目として取り上げるもの（読者の興味を引くタイトルのつけ方、「は」と「が」の使い分け、など）、②個々の学習者に個別に行うもの、の2段階に分けて行った。

3. 成果と今後の課題

書くことが好きな学習者が選択科目として履修していたため、記事を書くことに対して意欲的で、結果、アンケートなどでも肯定的なコメントが複数見られた。しかし一方で、何度言っても締め切りを守らず、十分な推敲活動ができないまま記事を掲載し続けた学習者もいた。今後、そのような学習者がいた場合に、フリーペーパーの発行と学習者の日本語学習のバランスをどのようにとっていくかなど、検討していく必要がある。